

## 1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町金田987番地 (電話) 0947-48-3222		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年10月2日

(情報提供票より)(19年7月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 7 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	15人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15

## (2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	新築 / (改築)
建物構造	鉄筋コンクリート 2階建て 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	860 円	

## (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	20 名	男性	5 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福智町役場、小学校、警察、コミュニティセンターに囲まれ、緑一面の畑と福智山が一望できる所にグループホームなごみ苑がある。敷地は広く、庭木は夏の日差しをさえぎり、病院を改築した3ユニットは、管理者、職員が玄関、廊下、居間、居室に家庭的雰囲気を漂わせる工夫をし、利用者が穏やかに自由に暮らせる配慮がある。「地域の人々と交流し、理解してもらい、利用者の残存機能を活かした暮らしを職員一同で見守る」という理念で、職員は利用者、家族からの信頼が厚い。また、コミュニティセンターが目の前にあり、町内会に加入し、職員と利用者は、地域の一員として、行事や奉仕活動に参加し、交流が図られている地域密着型グループホームなごみ苑である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では要改善点が20件あったが、管理者、職員の熱心な取組みで11件が改善されている。「市町村との連携」「日常生活自立支援事業と成年後見制度の理解と活用」「職員を育てる取組み」「同業者との交流を通じた向上」「チームで作る利用者本位の介護計画」「日々のその人らしい暮らし」「日常的な外出支援」「災害対策」が今後の課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	会議の後の職員勉強会で話し合い、改善に向けた取組みをしているが、自己評価が3ユニット全て同じ内容になっている。3ユニットそれぞれの利用者の状態や環境が違うので自己評価の内容も当然違ってくると思われるので、職員一人ひとりが自己評価し、改善につなげることが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は利用者代表、家族、公民館長、町職員、ホーム職員が出席し、2ヶ月毎に開催している。なごみ苑の現状や今後の行事、活動予定を報告し、出席者から認知症や介護に関する質問や相談などがあり、双方向的な情報交換が出来ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から意見、苦情があった場合はすぐに対応できる体制はある。家族から職員になかなか意見を出しにくい雰囲気があるので、家族会を設立し、家族同士で話し合い、職員に要望していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、職員や利用者は敬老会など町の行事や奉仕活動に参加している。また、なごみ祭りを毎年実施し、地域住民も参加して交流を深めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一人として暮らし続けていくための理念をつくり、利用者や職員は、地域住民と交流を図り、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員全員で理念を唱和し、実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は、地区の敬老会や空き缶拾いに参加し、交流を図っている。また、法人グループ主催の盆踊り大会やもちつき大会などに積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員勉強会で自己評価について話し合い、管理者がまとめて作成し、改善に向けて取り組んでいる。		職員一人ひとりが、評価の意義を再確認し、自己評価に取り組む、それを持ち寄って会議で検討し、管理者が取りまとめて作成することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは利用者、家族、区長、町職員、管理者、職員で構成し、2ヶ月ごとに会議を開催し、行事参加の報告やサービス内容を資料で配布し、説明している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場が近くであり、コミュニティセンターがホームの前にあるという地の利を活かした活動している。		運営推進会議の町役場担当職員の協力を得て、ホーム主催の介護教室の開催や家族の勉強会、相談会など実施していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームの掲示板に明示しているが、現在該当者がいないので、利用者や家族に説明していない。		管理者や職員は「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」について、研修会を受講し、理解して利用者や家族に、いつでも情報提供できる体制であることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の状態は家族来訪時に報告し、来訪の少ない家族には、ホーム便りや記念写真を郵送したり、電話などで確実に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に報告する時に、苦情や意見を表出してもらい、職員会議などで話し合い、意見が反映されるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に、担当の利用者だけではなく、利用者全員に平等に支援が出来るよう指導している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員採用では男女、年齢の制限はない。建物が広いので、職員休憩室や喫煙場所を配置し、少しでも休憩時間をとり、職員が働きやすい環境になるよう工夫している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	管理者は職員に、常に相手の立場で考えて言動や行動をとるよう指導している。新人研修や会議の後の勉強会で、人権教育や啓発に取組むよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価や研修などの受講に仕組み、サービスの質の向上に繋げている。		職員一人ひとりの立場、経験など段階に応じた研修受講の機会をつくり、学んだことを全職員で共有し、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内の特別養護老人ホームやグループホームの交流があり、勉強会を実施している。		福智町に現在11のグループホームがあるので、協議会を結成し、ネットワーク化し、緊急時の協力体制や相互評価などを行い、事業所や地域全体のサービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はないが、入居前、本人や家族に生活暦や性格などモニタリングし、最初の2ヶ月くらいは職員が共に行動し、馴染みながら自然に暮らしていけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に家事をしたり、昔の歌を教えてもらったり、お互いに助け合って生活している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の表出が出来る利用者からは、時間をかけて聞き、出来ない利用者は家族や知人に相談し、職員同士で話し合い、利用者が、今何を一番望んでいるかという視点にたって支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人を良く知る家族の気づきや意見を出し合って作る介護計画が大切だが、家族からの要望は皆無でホーム任せの状態、家族の意見や課題を反映していない。		介護計画の見直しは、チームで出来ているが、家族が気楽に職員に相談できる雰囲気、安心して何でもいえる関係になることが望まれる。
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎の見直しで、状況変化に応じて、臨機応変に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を聞き、希望するサービスが受けられるように、病院、法人グループ内のデイサービスや特別養護老人ホームなどと連携している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医や24時間対応の提携病院など、いつでも相談や受診できる体制がある。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医療機関、特別養護老人ホームなどと連携をとり、終末期のあり方について、出来るだけ早い時期から話し合っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、人前であからさまに介護したり、大きい声で誘導したりしない見守りながらの介助を指導している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活のリズムを大切に、日々の暮らしがその人らしく過ごせるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、食事の準備をしたり、配膳、下膳を一緒に行い、テレビは消して食事を楽しんでいる。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はほぼ毎日行っており、利用者の希望の曜日、時間帯に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や趣味などを把握し、歌、将棋、碁、園芸、熱帯魚の餌やりなど一人ひとりの役割や楽しみごとが出来るよう支援している。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は天候や利用者の状態を把握し、散歩、買い物、ドライブなど一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。帰宅願望が強い利用者があるので、まれに鍵をかける場合もある。		職員は利用者の行動パターンを把握し、外に出ても一緒に行動し、対応していくことが望まれる。
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、災害時の避難経路、避難場所、消火器の操作などを把握しているが、避難訓練の実施がない。		消防署や地域の協力を得て、夜間を想定した非難訓練を実施し、また、災害に備えた非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの食事量、水分量をチェックし、栄養摂取量を把握し、その都度対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院跡地を改築し、職員や利用者の手作りで家庭的な雰囲気を演出し、居間、玄関ホール、廊下など、居心地よく生活できるよう工夫している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、広い部屋と狭い部屋があるが、利用者の状態や希望に合わせ、一人ひとりの馴染みの物を持ち込み、穏やかに過ごせるように支援している。		